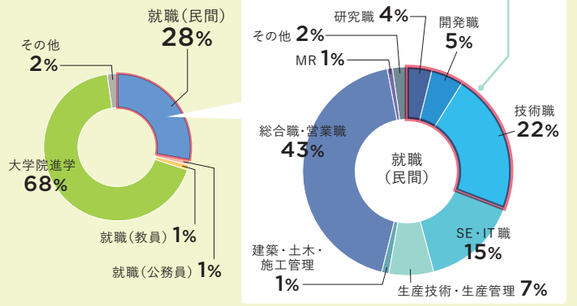
進路・就職

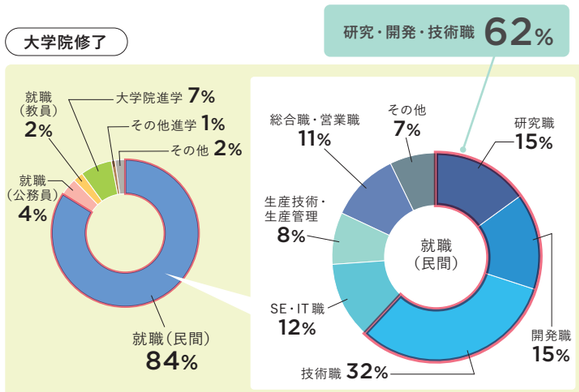
博士課程前期課程

■学部卒と大学院修了の職種別就職状況

学部卒



大学院修了



■2026年3月修了者の就職先例

［応用化学コース］	［生物工学コース］	［生命情報学コース］	［生命医科学コース］
花王（株）	（株）カネカ	SCREENホールディングス	シスメックス（株）
東レ（株）	（株）資生堂	アクセンチュア（株）	島津ダイアグノスティクス（株）
トヨタ自動車（株）	大王製紙（株）	（株）NTTデータ	東和薬品（株）
大日本印刷（株）	（株）ディスコ	楽天グループ（株）	エーザイ（株）
パナソニックエナジー（株）	エスビー食品（株）	一般財団法人日本品質保証機構	一般社団法人日本血液製剤機構

博士課程後期課程

■博士課程後期課程への進学

生命科学専攻では、研究科に相応しい高度な専門的実験・実習設備・機器環境を活用した教育・研究を展開します。また国際連携、地域連携、国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。（2026年度在籍者数（日本語基準生）：1回生11名、2回生14名、3回生以上11名）

	修了数	就職先		
		民間企業・団体	教育研究機関	その他
2021卒	4	0	3	1
2022卒	4	2	2	0
2023卒	9	5	2	2
2024卒	7	4	3	0
2025卒	5	2	3	0

■2026年3月修了者の就職先例

日本特殊陶業株式会社
DIC株式会社
大学等の教育研究機関（法政大学、立命館大学）

博士課程後期課程学生へのキャリア支援制度

問 RARAオフィス

本学では、博士キャリアパス形成を進めるために、各種講座・セミナーの開催や企業とのマッチングセミナーを開催しています。所属研究科で専門性を高めるとともに、社会で活躍するために必要な力やスキルを身につけることができます。

博士人材育成コンソーシアム

連携型博士研究人材総合育成システム（HIRAKU）

キャリアパス支援ガイド






立命館大学大学院 生命科学研究科
［びわこ・くさつキャンパス］〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1
TEL: 077-561-5021 E-mail: in-gsls@st.ritsumei.ac.jp

生命科学研究科ホームページ
https://www.ritsumei.ac.jp/gsls/

RITSUMEIKAN UNIVERSITY

Ritsumeikan University Graduate School of Life Sciences

立命館大学大学院
生命科学研究科

Applied Chemistry Course
Biotechnology Course
Bioinformatics Course
Biomedical Sciences Course

Guide 2027

4つの学問の融合と連携で拡がる無限の可能性

ライフサイエンス分野を探求する
4学科を融合させた学部での学びと
大学院での最先端の研究を通して、
エネルギー、環境、食料、医療、健康分野といった
幅広い分野への応用と貢献を可能にする
人材を育成します。

現代社会は、地球規模において、かつ、様々な分野において解決しなければならない様々な課題に直面しています。そのなかでも資源・エネルギー問題、環境問題、食糧問題ならびに医療問題は、世界の四大問題とも言える課題ではないでしょうか。
これらの課題を解決するためには、工学、理学、農学、医学、薬学などの基盤となる学問に加えて、これら互いの境界から、あるいは融合することで発展してきた生命科学がさらに発展し、その発展から生まれてくる研究成果を社会実装していくことが必要です。
生命科学研究科の特色は、工学、理学、農学、医学、薬学を基盤とする、あるいは基盤として新たに発展した応用化学、生物工学、生命情報学、および生命医科学の4つの学問分野で構成されていることです。すなわち、上述した四大問題に対応するうえで必要となる学問領域を概ねカバーしています。
生命科学研究科での学びと探究は、現代社会が抱える様々な課題にチャレンジし、より豊かな社会を創出したいと望んでいる学生の皆さんの期待に十分に応えることができると自負しています。



生命科学研究科長
花﨑 知則
Tomonori Hanasaki

P6

応用化学コース

材料・エネルギー・環境等の課題解決の糸口を原子・分子のレベルからアプローチ

活躍のフィールド

- 化学工業関連
- 機能材料メーカー
- 衣料品
- 食品
- 電気、機械

P9

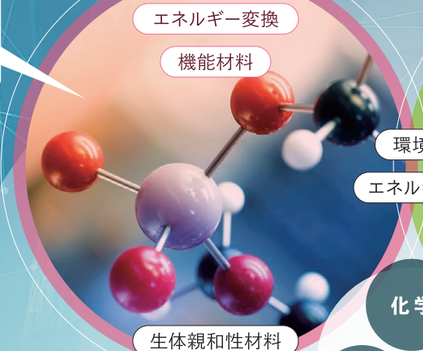
生命医科学コース

多種多様な生命現象を解明し、予防医学・再生医学の発展を目指す

活躍のフィールド

- 医療機関
- 医療機器
- 医薬品
- 化粧品
- 食品

新物質
ナノテクノロジー
環境分析
エネルギー変換
機能材料



生体親和性材料
医薬品



ゲノム医科学
テーラーメイド医療
遺伝子治療
予防健康医学

微生物
バイオエネルギー
分子生物学
環境浄化
生物資源



バイオテクノロジー
プロテオミクス



システムバイオロジー
ゲノム解析
情報科学
バイオインフォマティクス

環境
エネルギー
化学
医療
生命
ゲノム
RNA
DNA

博士課程
後期課程
DOCTOR

博士課程
前期課程
MASTER

P7

生物工学コース

食料、資源・エネルギー、環境等の諸課題の解決に有用な機能を生物から学ぶ

活躍のフィールド

- 化学工業関連
- 環境関連
- 化粧品
- 食品
- 衣料品

P8

生命情報学コース

生命科学と情報科学の融合から生命活動の仕組みを解明する

活躍のフィールド

- 衣料品
- IT関連
- 医療機器
- 食品
- エレクトロニクス関連

Ritsumeikan University Graduate School of Life Sciences

カリキュラム

修了要件

［前期課程］

科目区分		必要単位数		合計
共通科目		4単位以上		30単位以上
専門科目	コア科目	6単位以上	10単位以上	
	選択科目			
研究科目		16単位		

［後期課程］

科目区分	必要単位数	合計
専門科目	—	8単位以上
研究科目	8単位以上	

科目

［前期課程］

共通科目（全コース共通）
科学技術表現／産業・医療管理特論／知的所有権概論／技術経営特論／特殊講義（共通）／科学英語コミュニケーション特論（M）※自由科目／国内実習／海外実習

専門科目 コア科目

応用化学コース	物性・反応化学特論／構造物理化学特論／無機構造物性化学特論／無機機能材料化学特論／応用生物化学特論／X線分析化学特論／有機分子化学特論／有機機能材料化学特論／反応物理化学特論／有機反応・構造化学特論
生物工学コース	環境バイオテクノロジー特論／エネルギー・資源バイオテクノロジー特論／食料バイオテクノロジー特論／生物工学研究特論
生命情報学コース	ゲノム情報学特論／分子構造・機能学特論／数理生体機能学特論／分子設計学特論／生体分子ネットワーク特論／植物生理学特論
生命医科学コース	基礎生命医科学特論／応用生命医科学特論／先端生命医科学特論／生命医科学研究法概論

専門科目 選択科目

応用化学コース	エネルギー・資源バイオテクノロジー特論／生物工学研究特論
生物工学コース	基礎生命医科学特論／先端生命医科学特論／生命医科学研究法概論／分子構造・機能学特論／生体分子ネットワーク特論／植物生理学特論／応用生物化学特論／有機反応・構造化学特論
生命情報学コース	基礎生命医科学特論／先端生命医科学特論／応用生命医科学特論／エネルギー・資源バイオテクノロジー特論／環境バイオテクノロジー特論／食料バイオテクノロジー特論
生命医科学コース	環境バイオテクノロジー特論／エネルギー・資源バイオテクノロジー特論／食料バイオテクノロジー特論／ゲノム情報学特論／分子構造・機能学特論／応用生物化学特論／有機分子化学特論／有機機能材料化学特論

研究科目
生命科学特殊研究1〜4

［後期課程］

専門科目	選択科目	国内実習／海外実習
	自由科目	科学英語コミュニケーション特論（D）／費用対効果評価特論Ⅰ※／費用対効果評価演習Ⅰ※／費用対効果評価特論Ⅱ※／費用対効果評価演習Ⅱ※
研究科目	選択科目	生命科学特別研究
	自由科目	生命科学特別研究（IITH研究指導）

※「医薬品、医療機器及び再生医療等製品の費用対効果評価のための人材育成事業」にて、本大学および京都大学、北海道大学3大学での事業受託を受け、後期課程を対象としたHTA（医療技術評価：Health Technology Assessment）教育プログラムとして2025年度より新規開講。

研究科独自海外留学プログラム

世界を舞台に、研究する。

生命科学研究科では、海外大学・研究機関での学修や研究活動を通じて、専門性と国際的な研究力を高める多様なプログラムを展開しています。世界の研究者と学び、議論し、新たな研究に挑戦する機会が広がっています。

ストラスブール大学（ECPM）・生物工学スクール（ESBS）交換留学

フランス・ストラスブール大学化学・ポリマー材料科学ヨーロッパスクール（ECPM）、生物工学スクール（ESBS）に半年または1年間留学し、現地の大学院生とともに英語で専門科目を履修します。最先端の科学に触れながら、専門性と国際的な学修経験を身につけます。

プログラムの特徴

- ECPM／ESBSの正規開講科目を現地学生とともに履修
- 半年または1年間の中長期留学
- 現地での学修・生活を通じて異文化適応力を養成
- 帰国後、所定の手続により単位認定



Global Research Innovation Program（GRIP）

GRIPは、2027年度より新設された海外の大学・研究機関で研究活動に挑戦する生命科学研究科独自の留学プログラムです。渡航前には、研究発表やディスカッションなどに必要な実践的な英語力を身につけ、夏期・冬期の長期休暇期間を利用して海外で研究活動を行います。

プログラムの特徴

- 研究紹介・プレゼンテーション・ディスカッションなど、海外研究に必要な英語力を事前にトレーニング
- 自身の研究テーマを軸に、海外大学・研究機関で研究活動を実践
- 奨学金制度により海外での研究活動を経済的にもサポート



NEW 博士課程後期課程の新たな国際研究プログラム

インド工科大学ハイデラバード校（IITH）との共同指導プログラム Ritsumeikan Joint Supervision Program（RJSP）

2027年度開始予定！

生命科学研究科では、インドを代表する理工系高等教育・研究機関の一つであるインド工科大学ハイデラバード校（IITH）との共同指導プログラムを開始します。博士課程後期課程の学生が、立命館大学の指導教員に加えてIITHの教員からも研究指導を受け、原則として通算1年以上、IITHにおいて研究活動を行います。異なる研究環境や専門性を持つ研究者との議論・共同研究を通じて、自らの研究を発展させ、国際的に研究を推進する力を養います。

プログラムの特徴

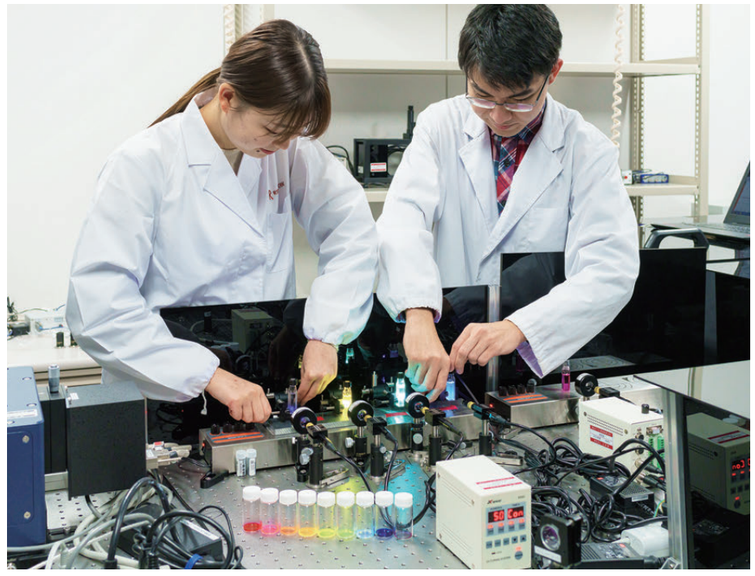
- **日印2大学による共同研究指導**
  立命館大学とIITHの教員が、それぞれの専門性を活かして博士研究を共同で指導します。
- **IITHで本格的な研究活動**
  原則通算1年以上、IITHで研究指導を受け、海外の研究環境に身を置いて博士研究を推進します。
- **国際共同研究を研究成果へ**
  IITHの指導教員との共同研究を進め、博士論文につながる研究成果の創出を目指します。
- **共同指導の成果を博士学位へ**
  本学の博士学位を取得し、所定の要件を満たした場合には、IITHとの共同指導により研究を行ったことが学位記に付記されます。



※構想中の内容で、一部変更する場合があります。

応用化学コース

Applied Chemistry Course







材料・エネルギー・環境等の課題解決の糸口を原子・分子のレベルからアプローチ

応用化学コースでは、物理化学・無機化学・分析化学・有機化学・生化学などを基盤として、物質の機能を解明するための、また、新物質の創製を実践するための化学的理論と技術を幅広く学びます。材料化学からエネルギー、生体関連物質まで、幅広い分野で研究を展開します。

［**研究室**］

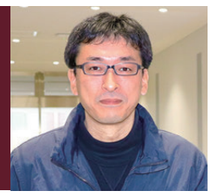
研究室名	担当教員	研究テーマ
無機触媒化学研究室	稲田 康宏	金属触媒の機能の原理を理解し、次世代の材料開発へ
無機電気化学研究室	折笠 有基、鐘 承超	固体電気化学に立脚したエネルギー変換デバイスのブレークスルー
錯体機能化学研究室	桑田 繁樹	新しい金属錯体を設計し、窒素、二酸化炭素などの不活性小分子の変換に応用する
生命無機反応化学研究室	越山 友美	生体高分子を利用した化学反応場の設計・構築と機構解明
光機能物理化学研究室	小林 洋一	物理化学を基盤として、光エネルギーを最大限活用したこれまでにない機能性材料を創出する
生命有機化学研究室	五月女 宜裕	分子触媒・酵素を用いた新反応を開発し、独自の生命制御分子をつくる
生物機能分析化学研究室	髙木 一好	酵素が触媒として作用する、生物における酸化還元（レドックス）反応について理解を深める
高分子材料化学研究室	堤 治	分子設計と分子集合構造の制御による新しい材料機能の創発
レーザー光化学研究室	長澤 裕	超高速分光による光化学反応および光合成初期過程の分子ダイナミクスの解明
有機材料化学研究室	花﨑 知則	新規な機能性有機材料を設計・合成しその応用の可能性を探る
超分子創製化学研究室	前田 大光	未踏分子の合成・集合化により電子・光機能材料を自在に創製する

PICK UP

微生物が生産する酸化還元酵素の新しい機能を追い求めています

［生物機能分析化学研究室］担当教員：髙木 一好

細胞内では、エネルギー生産や物質変換に関わる数々の酸化還元反応が進行しており、そのほとんどは酸化還元酵素が触媒します。これらの酵素の多くは、機能するために補因子という低分子を必要とします。近年、酸化還元酵素や補因子が情報伝達など新たな役割を担うことも分かってきました。本研究室では、これらの新しい機能を追い求めています。

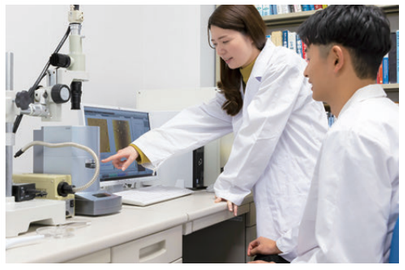


生物工学コース

Biotechnology Course







食料、資源・エネルギー、環境等の諸課題の解決に有用な機能を生物から学ぶ

生物工学コースでは、生化学、分子生物学、微生物学などを基盤とし、環境、食料、資源、エネルギーに関連する生物工学理論や技術を幅広く学びます。また、生物機能、生態系の構造・機能の解析や生物由来生理活性物質の解明などの基礎研究、ならびに、これらを基盤とした環境、食料、資源、エネルギーに関する応用研究を展開します。

［**研究室**］

研究室名	担当教員	研究テーマ
応用分子微生物学2研究室	青野 陸	微生物における物質変換機構の解明とその応用技術の開発
バイオエネルギー研究室	石水 毅	植物糖質関連酵素の解析と糖質化合物の機能解析
植物分子生物学研究室	笠原 賢洋	植物・微生物の環境応答の分子メカニズムの解明
食料バイオテクノロジー研究室	竹田 篤史	ゲノム編集を利用したウイルス・ウイロイド抵抗性植物の分子育種
生体分子化学研究室	武田 陽一	糖質関連分子プローブの創製による糖鎖機能の解明
微生物ゲノム動態研究室	竹俣 直道	アーキアゲノムの組織化原理とその機能の解明
構造生命科学研究室	松村 浩由	自然環境の改善と創薬に貢献する構造生命科学
応用分子微生物学1研究室	三原 久明	微生物の代謝経路の解明
酵素工学研究室	若山 守	酵素および発酵を利用した有用物質の生産法の開発

PICK UP

アーキアゲノムの組織化原理とその機能の解明

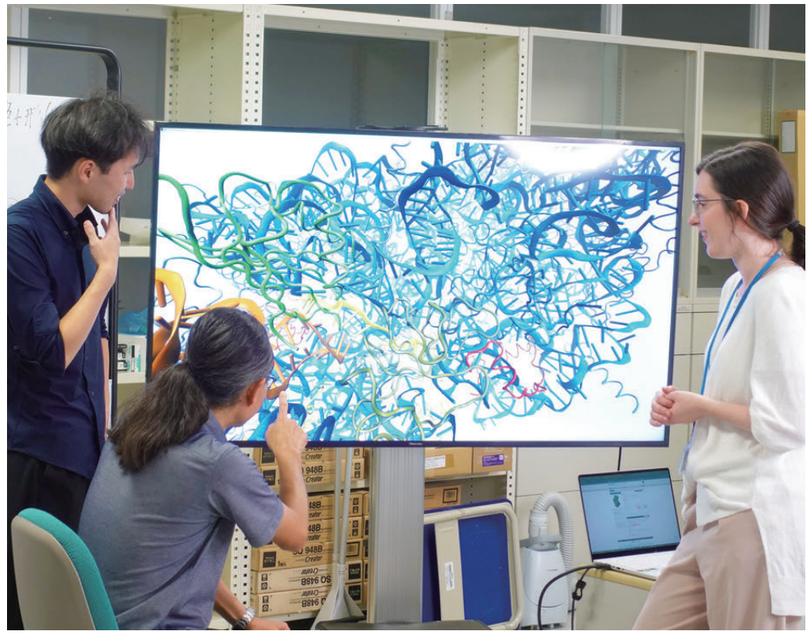
［微生物ゲノム動態研究室］担当教員：竹俣 直道

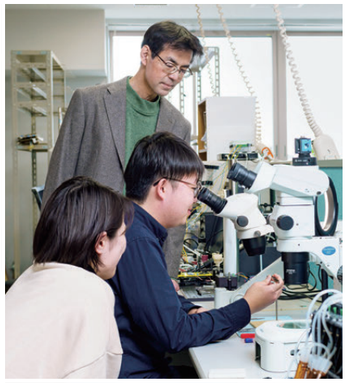
ゲノムDNAは細胞内で高度に組織化された三次元構造を形成しています。私たちは、真核生物の起源になったとされる微生物群「アーキア」において、ゲノムの組織化機構と機能がどう結びついているかを研究しています。このような取り組みを通じて、アーキアゲノムの進化的理解と産業応用を進めることを目指します。



生命情報学コース

Bioinformatics Course







生命科学と情報科学の融合から生命活動の仕組みを解明する

生命情報学コースでは、コンピューター（情報科学）を利用して、生命活動の仕組みを解明することを目的として、その基礎となる生命科学、情報科学、生物機能の解析技術に関する専門知識を幅広く学びます。その上で、遺伝情報、タンパク分子構造－機能相関、生体機能などの数理解析に関する研究を行い、生命科学、医学、薬学、食品、情報技術に関連した研究を展開します。

［研究室］

研究室名	担当教員	研究テーマ
組織機能解析学研究室	天野 晃	詳細な細胞モデルに基づいて組織・臓器の機能を解明する
情報生物学研究室	伊藤 將弘	ゲノム情報から生命システムを理解する
微生物情報機能学研究室	井上 真男	微生物のあらゆる情報を活用し、新たな機能を切り拓く
脳回路情報学研究室	木津川 尚史	運動のリズムと脳のリズム：リズムから読み解く神経情報処理
計算構造生物学研究室	髙橋 卓也	生体分子の構造と機能の関係を計算科学によって解明し、応用につなげる
生体分子ネットワーク研究室	寺内 一姫	光合成微生物を用いた環境適応の分子メカニズム解明
生物計算研究室	冨樫 祐一	情報処理機械としての生物を数理モデルを用いて理解する
生命システムデザイン研究室	姫野 友紀子	生命をシステムとして捉え、数理モデルで表現・デザインする
植物分子生理学研究室	深尾 陽一朗	植物の環境ストレス耐性に関わる分子機構の解明

PICK UP

計算機の中に細胞や臓器のデジタルコピーを作る

［組織機能解析学研究室］担当教員：天野 晃

近年の生命科学分野の研究で細胞内分子の働きに関する情報は爆発的に増えていますが、これらの情報を医療に活かすためには、膨大な数の分子がどのように協調して細胞や臓器の機能を実現しているかを理解する必要があります。たくさんの分子を組み合わせた数理モデルを作ることで、組織や臓器、ひいては個体がどのようにして動いているのかを理解することを目指しています。



生命医科学コース

Biomedical Sciences Course







多種多様な生命現象を解明し、予防医学・再生医学の発展を目指す

生命医科学コースでは、多岐に渡る基礎医学の先端領域とその融合領域を学び、未知の生命現象や様々な疾病の発症機構を解明します。更に、先端技術で開発された医薬品などの新規医療技術の適切な評価と社会への応用方法も学び、広く生命医科学研究を展開します。

［研究室］

研究室名	担当教員	研究テーマ
幹細胞・再生医学研究室	川村 晃久	体細胞初期化および幹細胞分化の分子機構解明とその再生医学への応用
タンパク質修飾生物学研究室	白壁 恭子	タンパク質修飾が生命現象を生み出す仕組みと疾患への影響
疾患細胞免疫学研究室	立花 雅史	免疫応答を抑制する細胞をターゲットとした疾患治療法の開発
薬理学研究室	田中 秀和	脳の豊かな適応力と神経回路のリモデリング
病態生理代謝学研究室	向 英里	糖尿病の発症解明とその治療と予防に向けた研究
医療政策・管理学研究室	森脇 健介	医療技術の価値を評価し、政策上の意思決定を支援する

PICK UP

免疫応答を抑制する細胞をターゲットとした疾患治療法の開発

［疾患細胞免疫学研究室］担当教員：立花 雅史

骨髄由来免疫抑制細胞（Myeloid-derived suppressor cells; MDSC）は、生体の恒常性が崩れた際、すなわち、疾患が引き金となって出現する細胞です。恒常性を元の健康な状態に戻すには、MDSCの除去や機能阻害が有効であると考え、MDSCを標的とした新規疾患治療法の開発を目指し、その分化・増殖・機能の詳細なメカニズムの解明に取り組んでいます。



(STUDENT VOICE)

教えて先輩！ Q&A

VOICE 01
応用化学コース

［無機電気化学研究室］
進路：北陸電力株式会社



Q 大学院へ進学した動機を教えてください。

A 大学院では一つの課題に深く向き合い、最後までやり遂げる力を身につけたいと考え進学しました。さらに、研究室での探求にとどまらず、学会やセミナーの場で外部の方々と活発に議論を交わすことで、客観的な視点や論理的思考力も鍛え、自分自身の成長に繋がると思いました。

Q 大学院ではどのようなことに取り組みましたか？

A リチウムイオン電池のグラファイト負極における、高温環境下における界面反応メカニズムについて研究を行っています。高温劣化の主要因として電極表面に形成される被膜の影響が挙げられます。この被膜に着目することで高温劣化抑制につながると考察しています。そこで、電気化学測定やX線を用いた測定により電池性能と被膜の状態の相関性を調査しています。

Q 大学院へ進学してよかったことはどんなことですか？

A 研究会や学会発表などの経験を通じ、様々な実験データを組み合わせて論理的に考察する力、それを専門外の人にもわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力を磨けたことです。これらの能力は就職活動にも活かすことができ、研究活動を通じて大きな成長を実感しました。

Q 大学院修了後、どのようなことに取り組んでいきたいですか？

A 大学院で培った知識と技術を活かし、変化し続ける社会の中で新たな価値を生み出せる技術者になりたいです。配電部への配属が決まっており、研究を通じて培った考察力や、プレゼンテーション能力を活かせるのではないかと考えています。技術と対話の両方の力を武器に、電力会社で社会に貢献していきたいです。

Q 進学を希望される方にメッセージをお願いします。

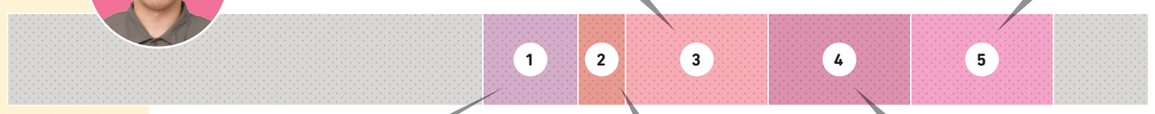
A 大学院での研究は思ったような結果が出ず、壁にぶつかることも多々あります。しかし、その過程で仲間と試行錯誤、議論を繰り返した経験が、自分自身の大きな成長に繋がると感じます。また、研究室では楽しいイベントなどもありますので、メリハリを大切にして、有意義な研究生活を楽しんでください！

ある1日の過ごし方



③13:00～16:00 ｜ 研究室セミナー
研究の進捗状況や論文を読んで報告する活動を週に1度行っています。ここでプレゼン能力などを身につけることができます。また、たくさん質問をすることで、新たな知見を得ることができ、自分の研究に活かしています。

⑤19:00～22:00 ｜ 実験・片付け
コアタイムがなく、自由に実験のスケジュールを組めるのが当研究室の良い点です。測定の都合上、待機時間が長いため夜に実験をし、朝確認を行うようにしています。失敗していたら翌日の朝から少し落ち込みます。



①10:00～12:00 ｜ 前日の解析・実験
朝に弱いので、通学時間は少し遅めです。前日の夜に行った実験の確認や解析を行ったり、セミナーや学会の発表資料をまとめたりしています。集中力がある午前中にデスクワークを行います。

②12:00～13:00 ｜ 昼食
昼食は、研究室内の炊飯器でご飯を炊いています。同期や後輩と実験以外の様々な会話をしながら、仲を深めています。

④16:00～19:00 ｜ トレーニング
趣味のパワーリフティング活動のためにトレーニングを行っています。運動に興味のあるメンバーと一緒に行うこともあります。メリハリを付けてトレーニングを行うことで、リフレッシュすることができます。

VOICE 02
生物工学コース

［食料バイオテクノロジー研究室］
進路：立命館大学生命科学研究科
博士課程後期課程進学



Q 大学院へ進学した動機を教えてください。

A 学部の実験科目を受講するなかで、実験そのものだけでなく、得られた結果から原因や仕組みを考察し、生命現象を理解していく過程に大きな魅力を感じました。就職も考えましたが、自分が本当に好きだと思える研究をさらに突き詰め、その成果を通じて社会に貢献したいという思いが強くなり、大学院への進学を決意しました。

Q 大学院ではどのようなことに取り組みましたか？

A 植物に感染するRNAウイルスに対する植物の防御機構について研究しています。植物はRNAサイレンシングを利用してウイルスに対抗していますが、その中で重要な役割を担うAGO2という遺伝子がどのように発現誘導されるのかについて調べています。実験を行うだけでなく、学会発表や論文執筆といった研究成果の発信にも挑戦しました。

Q 大学院へ進学してよかったことはどんなことですか？

A 自分が知りたいことや解明したいと思ったことをとことん追究できたことです。日々試行錯誤を重ねながら研究に向き合うことで、課題解決力や論理的思考力も養われました。また、学会発表や論文執筆など研究者としての基礎を学ぶ機会にも恵まれ、自分自身の大きな成長につながったと感じています。

Q 大学院修了後、どのようなことに取り組んでいきたいですか？

A 博士後期課程修了後も、大学院で培った専門性を生かし、植物のウイルス抵抗性メカニズムの解明や抵抗性植物の育種に取り組みたいと考えています。植物病理学のスペシャリストとして研究を続け、世界的な食料問題や農業分野の課題解決に貢献できる人材を目指し、さらなる研鑽を積んでいきたいと考えています。

Q 進学を希望される方にメッセージをお願いします。

A 実験は失敗の連続ですが、その原因を考えながら試行錯誤し、予想通りの結果が得られたときの達成感は格別です。また、予想外の結果から新たな発見につながることもあり、研究のおもしろさを日々実感しています。実験や考えることが好きな人や、何かに挑戦してみたい人は、ぜひ大学院進学を考えてみてください。

ある1日の過ごし方



①11:00～13:00 ｜ 実験準備・昼食
朝は自宅でゆっくりしてから大学に向かいます。今日行う実験内容を確認し、試薬やサンプルの準備をします。昼食は院生研究室（パソコン作業や飲食ができる部屋）で取ることが多いです。

③15:00～20:00 ｜ 実験・夕食
生物系の実験はPCRや遠心分離など待ち時間が多いので、合間に研究室の仲間と生協に行っておやつを食べたり、夕食を取ったりします。実験中は集中しているので、こうした雑談の時間が良い気分転換になっています。



②13:00～15:00 ｜ ゼミ（ゼミがなければ実験）
私の研究室では週に2回、授業1コマ分のゼミがあります。ゼミでは研究の進捗を報告したり、最新の論文を紹介したりしてディスカッションを行います。週に2日のアルバイトがある日は、夕方に帰宅します。

④20:00～23:00 ｜ 実験
研究室に人が少なくなり、より集中して実験できるお気に入りの時間です。実験がないときは、論文を読んだり、新しい実験のアイデアを練ったりしています。疲れた日は研究室の仲間と夕食を食べに行くこともあります。

(STUDENT VOICE)

教えて先輩！ Q&A

Q 大学院へ進学した動機を教えてください。

A 高校生の頃から食品の研究開発に携わりたいという思いがあり、大学入学当初から大学院進学を視野に入れていました。学部での授業や研究活動を通して、試行錯誤を重ねながら解決する研究の面白さを実感しました。その経験から、専門性や実践的な研究力を身につけ、社会に貢献できる研究者へ成長したいと考え、大学院進学を決意しました。

Q 大学院ではどのようなことに取り組みましたか？

A 新たな共生藻類が持つ体内時計様分子の機能解析に取り組みました。藻類の細胞内小器官に存在するこの分子機能は未解明でしたが、自身の解析により、時計の一部機能が保持されることを明らかにしました。この知見を基に、対象分子の機能を解析し、新規共生藻類における時計の駆動原理を追求しています。

Q 大学院へ進学してよかったことはどんなことですか？

A 専門分野の知識と研究力を深められたことです。研究活動や学会発表等を通じて、論理的思考力や問題解決力を身につけ、思うような結果が得られない際にも原因を分析し、柔軟に対応する力を培いました。また、多様な人と議論や協力を重ねる中で、考えを伝える力や、多様な視点を取り入れる力も身につけました。

Q 大学院修了後、どのようなことに取り組んでいきたいですか？

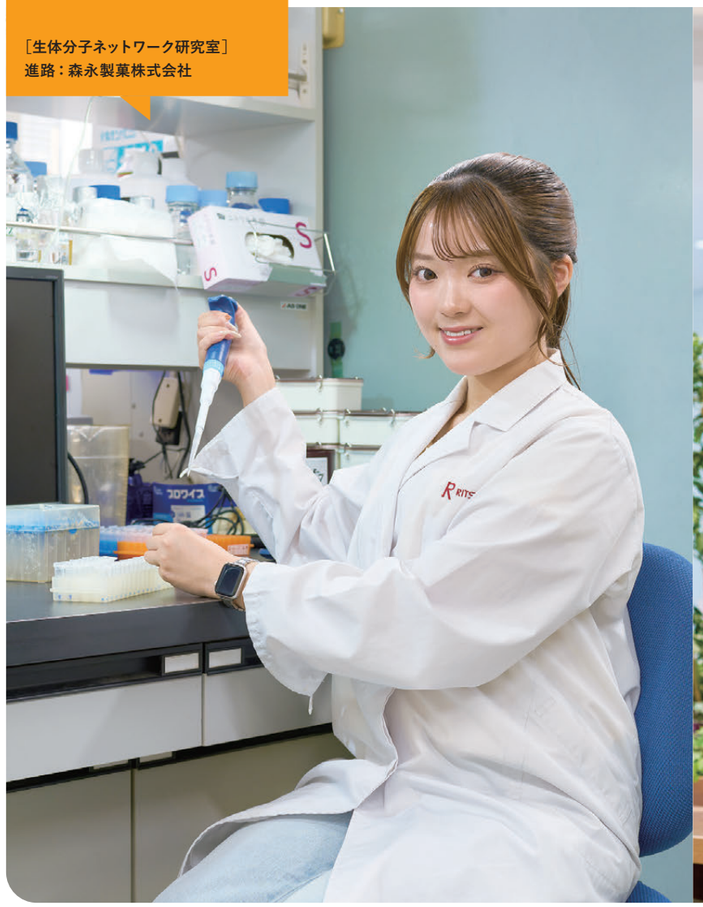
A 人々の健康や豊かな食生活に貢献できる食品の研究開発に取り組みたいと考えています。研究活動で培った課題発見力や論理的思考力を活かし、変化し続ける社会や消費者ニーズを的確に捉え、新たな価値や革新を生み出す製品の創出に挑戦したいです。また、新しい知識や技術を積極的に吸収し、社会に貢献できる研究者へ成長していきたいです。

Q 進学を希望される方にメッセージをお願いします。

A 大学院では、興味のある分野を深く探究し、試行錯誤しながら研究に取り組めます。思うように結果が出ず悩むこともありますが、仲間や指導教員との議論や協力を通じて視野が広がり、新たな発見につながる瞬間は大きなやりがいと楽しさを感じます。興味や目標があるなら、ぜひ一歩踏み出して挑戦してみてください。

VOICE 03 生命情報学コース

［生体分子ネットワーク研究室］
進路：森永製菓株式会社



VOICE 04 生命医科学コース

［タンパク質修飾生物学研究室］
進路：ユニ・チャーム株式会社



教えて先輩！ Q&A

Q 大学院へ進学した動機を教えてください。

A 学部時代に将来について考えた際、理系職に就きたいという思いが強く、理系職では専門知識や研究経験が求められるため、大学院への進学を決意しました。また、研究活動を通して専門性を深めるだけでなく、今しかできない経験をし、将来に生かせる力を身につけたいと考えたためです。

Q 大学院ではどのようなことに取り組みましたか？

A 細胞間接着を担うタンパク質の切断が細胞運動に与える影響について研究しています。先輩による先行研究では、このタンパク質の切断により、細胞の運動能が向上することが明らかになりました。そこで私は、タンパク質同士の相互作用解析や顕微鏡を用いた細胞の観察を通じてそのメカニズムを明らかにするための実験に取り組んでいます。

Q 大学院へ進学してよかったことはどんなことですか？

A 大学院では、研究活動を通してこれまで足りなかった論理的思考力を養うことができました。また、研究室内での先輩、後輩、同期、先生とのディスカッションを通じて、多様な意見を取り入れながら課題を解決する力も身につきました。学部では得られなかった経験を重ね、自身の成長につながったことが大学院に進学して最も良かった点です。

Q 大学院修了後、どのようなことに取り組んでいきたいですか？

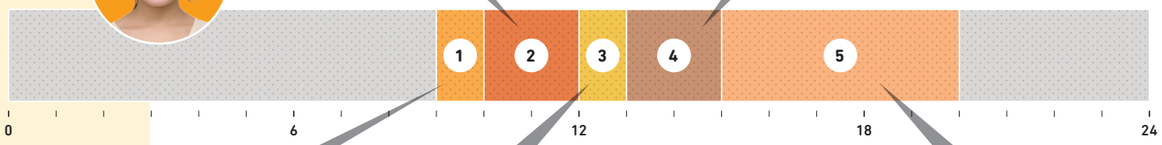
A 大学院修了後は、ペットの健康を支えるフードの開発に携わりたいと考えています。家族の一員であるペットの健康は、飼い主さんやその周囲の人々の心の健康につながると考えています。大学院で培った力や経験を生かし、多くのペットと飼い主さんに安心と笑顔を届けられる製品の開発に貢献したいです。

Q 進学を希望される方にメッセージをお願いします。

A 大学院では、研究が思うように進まず、悩むことも少なくありません。しかし、結果が得られたときの達成感は大きく、何にも代えがたいやりがいを感じられます。また、困難を乗り越える過程でさまざまな力が身につき、自身の成長を実感できます。仲間と切磋琢磨しながら過ごす時間もかけがえのない経験になるので、ぜひ挑戦してください。

ある1日の過ごし方





①9:00～10:00 ｜ 実験準備
研究室に着いたら、まずその日の予定や実験内容を整理します。その後、実験を円滑に進められるよう、必要な試料の調整や実験器具の準備を行います。

②10:00～12:00 ｜ 研究室セミナー
研究の進捗報告や論文紹介を行う研究室セミナーが週に1回あります。発表や質疑応答を通じて、多様な視点や意見に触れることで視野が広がり、自身の研究を多角的に見直すことができる重要な機会となっています。

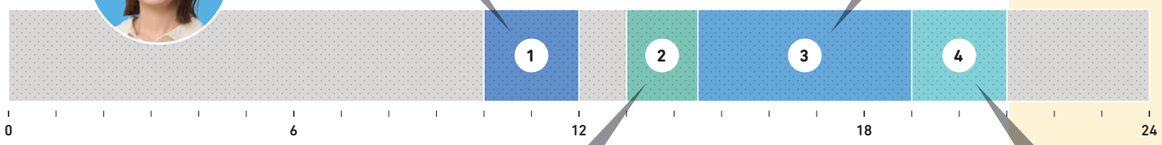
③12:00～13:00 ｜ 昼食
セミナー終了後は、研究室のメンバーと一緒にキッチンカーや食堂で昼食をとります。同期だけでなく、後輩とも楽しく会話をしながら食事をすることで、研究の合間のリフレッシュとなっています。

④13:00～15:00 ｜ TAのアルバイト
TAとして、授業や実験実習のサポートを担っています。学生からの質問対応では、答えを直接伝えるのではなく、学生自身が考えながら理解を深められるよう意識して対応しています。

⑤15:00～20:00 ｜ 実験・ノート整理
実験では、研究計画に基づき、タンパク質精製やSDS-PAGEなどの解析を行っています。実験後には、得られた結果や考察を実験ノートにまとめ、次の実験計画や研究方針の検討につなげています。

ある1日の過ごし方





①10:00～12:00 ｜ 実験、ノート整理
前日に行った実験の続きを進め、タンパク質同士の相互作用を解析するためのサンプル処理を行いました。実験の待ち時間には、午後のノートミーティングに向けて実験結果や考察を整理し、報告内容をまとめています。

②13:00～14:30 ｜ ノートミーティング
研究テーマごとにグループを分け、隔週で教授とのミーティングを行います。実験ノートを見ながら進捗や課題を報告し、ディスカッションを通して今後の実験方針を考えます。新しい視点からアドバイスをいただける貴重な時間です。

③14:30～19:00 ｜ 実験
午前中に作製したサンプルを用いて電気泳動、ウエスタンブロッティングを行いました。細胞播種からDNAトランスフェクション、ウエスタンブロッティングによる解析までを1週間かけて進めることが多く、計画的に実験を進める力も身につきます。

④19:00～21:00 ｜ 研究室メンバーでラーメン
実験後はラボに残っているメンバーとラーメンを食べに行くことがよくあり、良い気分転換になります。プライベートでも釣りや映画やスポーツ観戦などにみんなで行くことがあり、先輩後輩関係なく仲が良い研究室です。

学費・奨学金・支援制度

学費

［博士課程前期課程］

	1年次		2年次
	本学園出身者	他大学出身者	
入学金	—	200,000円	—
授業料（春学期）	668,800円	668,800円	668,800円
授業料（秋学期）	668,800円	668,800円	668,800円
計	1,337,600円	1,537,600円	1,337,600円

※上記以外に、院生協議会費4,000円、校友会費（他大学出身者のみ）30,000円が必要です。

［博士課程後期課程］

	1年次		2年次	3年次
	本学園出身者	他大学出身者		
入学金	—	200,000円	—	—
授業料（春学期）	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円
授業料（秋学期）	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円
計	500,000円	700,000円	500,000円	500,000円

※上記以外に、院生協議会費4,000円が必要です。

奨学金

学内ではさまざまな奨学金や支援制度を設けています。
2026年度現在の制度です。2027年度から変更となる場合もありますので、
出願に際しては、問い合わせ先、募集要項等で必ず確認をしてください。

［奨学金についての詳細はこちら］
https://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/financial/

1年次対象成績優秀者奨学金

M 前期課程対象　問 生命科学部事務室

本奨学金は、博士課程前期課程に入学する者で、入試成績が優秀な者に対して給付する奨学金です。
研究科が指定する入試方式の合格者で、入試成績が優秀な者を採用内定者に選出し、原則として合格発表時に合格者本人に通知します。
※国費外国人留学生ならびにこれに準ずる資金を得て入学を予定している者は対象外となります。

■種類・給付金額と給付人数の割合
成績優秀者に対して学期ごとに右記に記載の奨学金の半額を給付※します。
※1年次の各学期の授業料の納入時に、授業料と相殺する方法により給付します。

給付額（年間）	300,000円
給付人数の割合	入学者数の30%程度

2年次対象成績優秀者奨学金

M 前期課程対象　問 生命科学部事務室

本奨学金は、博士課程前期課程の2年次（第3・4学期）在学者を対象として給付する奨学金です。
※国費外国人留学生ならびにこれに準ずる奨学金等を得て在学する者、特別在学料を納入して在学する者は対象外となります。

■種類・給付金額・給付人数の割合
成績優秀者に対して学期ごとに下記に記載の奨学金の半額を給付※1 します。

給付額（年間）	Ⅰ：400,000円　Ⅱ：200,000円
給付人数	ⅠとⅡを合わせて、最大で在学者数の30%程度※2

※1 給付方法の詳細については、募集要項を確認してください。
※2 春学期の募集は4月1日、秋学期の募集は9月26日時点での在学者数が基準となります。
給付基準は総合評価の得点上位者となります。

■募集時期
春学期募集：4月／秋学期募集：10月　※申請できるのは、第3学期在学時に限ります。

研究奨励奨学金

D 後期課程対象　問 教学推進課

本奨学金は、本学大学院に在学する優秀な研究業績を有する者の授業料を補助することにより、
当該課程における研究活動を奨励することを目的とした奨学金です。S・A・Bの3種類に種別されています。

種別	S給付	A給付・B給付
対象	日本学術振興会特別研究員の身分を有する者・申請年度採用の募集における2次選考候補者	各研究科の研究上の目的に照らして優れた研究業績をあげた者、あるいはあげることが期待できる者　※標準修業年限超過者は除く
給付金額・募集時期	〈支給額〉授業料相当額 〈通知〉5月頃、対象者にmanabaで通知	〈支給額〉A：授業料相当額　B：授業料の1/2相当額 〈募集時期〉6月上旬（予定）
採用実績（2026年度）	1名	A：3名（後期課程在学者総数の5%） B：8名（後期課程在学者総数の15%）

NEW 2026年度より新設

ドクターズブリッジアップ奨学金

M 前期課程対象　問 生命科学部事務室

本奨学金は、博士課程後期課程への学内進学を志す者で、
入試成績が優秀な者に対して給付する奨学金です。
生命科学研究科博士課程前期課程に在籍し、当該年度に実施される
博士課程後期課程学内進学入試において成績上位で合格した者を対象として選考します。
入試成績に基づき自動的に選考するため、本奨学金への申請手続きは不要です。
また、他の研究科奨学金との併給も可能です。

給付金額	25万円（入試合格後に全額を一括給付）
給付人数	博士課程前期課程2年次在学者数の10%程度

グローバルステージ奨学金

M 前期課程対象　D 後期課程対象　問 生命科学部事務室

生命科学研究科グローバルステージ奨学金は、国際的なステージで活躍する人材を育成することを目的として2024年度より新設された奨学金です。
当奨学金は3種あり、海外留学や国際学会発表など国際的な活動にかかる費用を補助します。

種類	奨学金名称	支給額
スキームA	プログラム奨学金	1〜20万円 （プログラムによって異なる）
スキームB	〈海外現地参加〉 国際学会奨学金	3〜6万円 （地域によって異なる）
スキームC	〈国内参加〉 国際学会奨学金	2万円

※2027年度より、一部対象プログラムの拡充や支給額変更を予定しています。募集要項や案内をよく確認してください。

スキームA「プログラム奨学金」は、以下のプログラム参加者に対し、渡航に関わる一部費用を補助する制度です。奨学金額等詳細は、各プログラム参加者募集時にお知らせします。

- マレーシアプトラ大学ライフサイエンスプログラム
- インド工科大学ハイデラバード校PBLプログラム
- Global Research Innovation Program（GRIP）
- ストラスブール大学交換留学プログラム

博士課程院生研究支援奨学金

D 後期課程対象　問 RARAオフィス

博士課程後期課程在学者を対象に、優れた研究計画に対して、実現に向けた経済的な負担を軽減し、
在学中の学位取得に資する研究活動を促進することを目的に助成をおこないます。
申請区分に応じて、1件あたり10万円・30万円・50万円のいずれかを審査の上、給付します。

Ritsumeikan Advanced Research Academy（RARA）学生フェロー

D 後期課程対象　問 RARAオフィス

本学の中核研究者の指導を受ける博士課程後期課程学生のうち、特に優秀な学生をRARA学生フェローとして選抜・認定を行った上で、
育成支援を行うプログラム。研究活動支援金（生活費相当額）・研究費が最長3年間にわたって支給されます。

支援内容	RARA × SPRING：研究活動支援金（年額222万円）と研究費（最大34万円）

日本学術振興会特別研究員を目指している方へ

特別研究員制度は、日本トップクラスの優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら
研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る目的で独立行政法人日本学術振興会が実施する制度です。
特別研究員に採択された方には、研究奨励金が支給されます。採択者の多くは常勤の研究職に就いており、
若手研究者の登竜門と言われています。将来、研究職を目指している方、後期課程進学を考えている方は、ぜひ挑戦してみてください。

申請区分

DC1 後期課程進学時※に申請する区分

採用期間	3年間
研究奨励金	月額22万円（支給予定額）
研究費	応募区分によって異なります
採択のポイント	修士課程・博士課程前期課程2回生5月時点※までに描いた研究計画の独自性や実現性を評価されます。さらに、「研究遂行能力がある」とアピール出来ると評価が上がります。

DC2 後期課程在学時※に申請する区分

採用期間	2年間
研究奨励金	月額22万円（支給予定額）
研究費	応募区分によって異なります
採択のポイント	申請時※までに描いた研究計画の独自性や実現性を評価されます。さらに、「研究遂行能力がある」とアピール出来ると評価が上がります。

※課程により、時期が異なる場合があります。詳細については、募集要項を必ず確認してください。